

令和 7 年度（2025 年度） 第 6 回小原地域会議 会議録

開催日時	令和 7 年 9 月 30 日（火）	開会	閉会
		午後 6 時 30 分	午後 8 時 30 分
会 場	小原支所 第 1 会議室		
出席者	委 員	竹内正美（会長）、白川悠理（副会長）、成瀬友昭、安藤茂則、大林鐘次、岡田口治、板倉正典、加藤元紀、山内明、成瀬啓一、田澤由佳、鈴木孝典、濱辺誠一、無州麻美、伊藤大悟	
欠席者	景山卓己、小出透、増岡正博		
次 第	開 会		
	1 協議事項：里の駅構想について		
	・これまでの議論の整理 — 株式会社 MN コンサルタント		
	・意見交換		
	・各自治区での意見収集について		
	2 その他（連絡事項・配布物等）		
	・小原ラリー進捗状況		
	・市場城跡発掘調査		
	閉 会		

■ 議事要旨

里の駅構想について

今回より、株式会社 MN コンサルタント様に同席いただき、小原地区まちづくり計画「第 2 期おばらみらいプラン」、令和 6 年度及び令和 7 年度 3 回目までの地域会議での議論を整理し、里の駅事業（仮）の将来目標・基本方針、整備計画、実現に向けた進め方、里の駅の候補地など、里の駅のイメージ資料案を作成し、説明した。これをもとに、意見交換を行った。

○今後の地域会議の進め方

- 第 6 回（今回）：里の駅構想の資料提示と意見収集
- 第 7 回：地域住民から収集した意見の報告・共有
- 第 8 回：イメージ（案）提示・意見収集
- 第 9 回：里の駅イメージ完成図発表

○主な発言・論点

- ・ 今までの意見はまとまった。パンチとなるものは地域会議でも見つけられなかったが、もう

一歩芯になるようなものが資料にあると良かった。里の駅をショーケースとするなら、このような整備計画になると思う。

- ・ 江戸時代からの枠組み（字）が根付いているので、外からのスパイスが必要。
 - ・ 小原の知恵やスキルを集め、発信するセンター機能が必要。
機能が具体的にになると、誰が適任なのかなどが見えてくると思う。
 - ・ 観光、移住や空き家対策、地域住民の3本柱に対して意思統一を図り、できる所から段階的に取り組むことが必要。
 - ・ 既存施設を活用し、観光や飲食店などの情報発信機能は、子どもたちも巻き込みながら簡単に始められる。
 - ・ 小原の課題に対して事例が示されると、改善する道筋がわかりやすくなり、アイデアが湧いて行動につながる。
 - ・ アイデア出して具体化するのが一番面白いので、自分たちで方法を考え、自分たちで実行することが大事。
 - ・ 和紙や歌舞伎は小原にあるが生活に根付いていない。地域住民も実感を伴う形で取り入れていく必要がある。
 - ・ 里の駅は、地域住民や新しく来る人にとって暮らしを底上げするような場所にしていきたい。
 - ・ 昔からの住民も意識改革をして、地域住民の理解や協力が必要。
 - ・ 里の駅に常に行けるような環境や機能、移動手段まで考えておかないと、地域住民が行けなくなってしまう。
 - ・ 各地区での伝統料理や、地域で助け合う「結」の制度、昔の体育祭や行事がなくなり住民同士の交流が失われてしまった。
 - ・ みんなで一緒に活動できるイベントや、共有できる拠点があると良い。
 - ・ 誰が主体となるか、運営体制を決めないと前に進まない。
- ⇔ ・ 里の駅は高い理想を掲げ、それに共鳴する人、やってみたい人が集まる形で進めるのが良い。
- ・ 里の駅に興味を持つ人たちの参加を広げた方が良い。
 - ・ 里の駅の名称案として「里の駅〈おぼらのじかん〉」を提案。小原の時間を売る場所としたい。
 - ・ 小原に何度も足を運んでもらい、小原のことを好きになってもらい、定住につなげたい。
 - ・ 観光は「光を観る」と書く。小原にたくさんある光を見に来てもらえる活動が必要。
 - ・ 和紙とうるし工房は、新しい作家や軽トラあんどん等の大判の紙が漉ける場所として認知されている。もっと周知して、活動を継続する必要がある。
 - ・ 旭の「しきしまの家」での取り組みや仕組みを見学・情報交換ができると良い。
 - ・ 4Pの「昔・現在・将来の流れ」について、高齢者は昔の助け合いに強く共感でき、将来像を描く道筋になる。
 - ・ 60代以上は共感しやすいが、50代以下は代替わりが進まず当てはまらないので、世代間

で受け止めに差がある。

- ・ 小原城址や地獄谷などの歴史的資源、和紙や歌舞伎の舞台などを発掘し、地域にも示して練り上げたい。
- ・ 小原で活動していることを知らせる場とすることが、小原の発展に良いチャンスとなると思う。
- ・ 「小原をどうにかしたい」という意識を持つ住民は少なく、地域ごとにリーダー的存在がいるとついてくる人が出てくる。
- ・ 小原の歴史が残ってきたのは、強いリーダーがいなかった結果でもある。リーダー不在の中でも出発点にするしかない。
- ・ 拠点は和紙とうるし工房だけでなく、駐車場周辺を含めて「和紙のふるさと」一体が良い。
- ・ 第2期おばらみらいプランには、「子どもたちが自由に集える居場所」「若い世代が気軽に参加できる雰囲気や賑わいの場」というキーワードがあるが、里の駅の整備計画では抜けている。生活基盤や助け合いの拠点づくりは社協や交流館の事業と重複しているので、「子どもたちが自由に集える場所」を加えてほしい。
- ・ 体験やイベントなどの商業的な要素を取り入れ、小原地区外の子どもたちや住民の体験・交流の場とするのが良い。
- ・ 地域の活動が内々だけで閉じてしまっているので、里の駅が活動を巻き込む場になることを期待したい。
- ・ 小原の子どもたちが、小原の外の子どもたちと触れ合える場所になれば良い。
- ・ 小原で過ごす時間は贅沢なので、農業体験などができれば移住促進にもつながる。
- ・ 子どもたちの居場所がないので、居場所があると良いと思う。事例があれば知りたい。

自治区での意見聴取について

各委員が自分の所属する自治区、団体や身近な住民から意見を伺い、委員自身の意見＋周囲の声を反映して提出。11月4日の次回会議までに集約。